

# 内部質保証を見据えた学修ポートフォリオと ルーブリック評価について

三宅 元子・白井 靖敏

## Learning Portfolio and Rubric Evaluation for Internal Education Quality Assurance

Motoko MIYAKE and Yasutoshi SHIRAI

### 抄 録

本学A学部が2016年度から導入した学修ポートフォリオ及び全学で2019年度から実施したルーブリック評価の実状を把握し、それらの効果について調査した結果を検討した。学修ポートフォリオについて、4年間の実施結果からは日常的な学習である予習・復習の時間的あるいは質的な伸長が望めなかったが、学習の振り返りに関しては一定の効果が認められた。一方、学生自身が行う評価の指標として「総括的ルーブリック表」は有効であり、どのように学習をすればよいかという学習方法の指標ともなったことから効果が認められた。

キーワード：高等教育、学修ポートフォリオ、ルーブリック、評価、内部質保証

### 1. 目 的

2017年3月の「我が国の高等教育の将来構想について」(文部科学省)の諮問を受け、2018年11月に中央教育審議会から「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」<sup>1)</sup>が公表された。そこでは、高等教育が目指すべき姿として「個々人の可能性を最大限に伸長する教育」が位置づけられた。また、実現すべき方向性として、学修者本位の教育への転換、すなわち「何を学び、身に付けることができたのか」を明確にし、学修の成果を学修者が実感できる教育(学修成果の可視化)を行っていること、そのような教育が行われていることを確認できる質の保証の在り方へ転換されていくことが示された。

各大学は、学修者が自らの可能性を最大限に発揮するとともに多様な価値観を持つ人材が協働して社会と世界に貢献していくため、学修者にとっての「知の共通基盤」となるという視点に立ち、「何を学び、身に付けることができるのか」を中軸に据えた多様性と柔軟性を持った教育への転換を図っていくことが求められている。学生がSociety5.0の人材として必要とされる21世紀型スキルや汎用的能力を身に付けるためには、高等教育機関において社会のニーズも踏まえた質の高い教育を受け、自らの能力を高めることが重要である。同時に、入学時から卒業時までの学修者の「伸び」、さらに卒業後の成長をも意識した教育の質の向上を図っていく必要がある。

知識集約型社会の進展と質の高い高等教育での人材育成を進めるためには、教育の質の保証が重要である。大学が行う「教育の質の保証」では、アセスメントポリシーに基づきPDCAサイクルが適切にかつ継続的に機能していることが、実質化のポイントだと指摘されている。PDCAサイクルとは、計画 (Plan)・実行 (Do)・検証 (Check)・改善の実践 (Action) の頭文字を順に並べたアクロニムである。このサイクルを回すうえでは、「P (計画)」を「C (検証)」できるようにして「A (改善の実践)」を適切に機能させることが重要であり、「学修成果の可視化」は避けては通れない。PDCAサイクルを回し続けるには、高等教育機関が自らの責任で自学の諸活動について点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努め、その質を自ら保証しなければならない。

名古屋女子大学 (以下、本学) においては、2017年度から三つのポリシー (ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー) を公開し、アセスメントポリシーも検討している。次の段階は、策定した三つのポリシーについての内部質保証として自己点検・評価をすることである。その一つのツールとして、本学では、A学部が2016年度から学生自身による学修の達成状況を点検・改善できる学修ポートフォリオを導入し、2018年度からはルーブリック評価を全学部・学科に組織的に導入している。

本稿では、導入した学修ポートフォリオとルーブリック評価の実状を把握し、それらの効果について調査した結果を検討する。

## 2. 方法

### 2.1 学修ポートフォリオの導入と実施方法

本学A学部2学科 (B・C学科) では、2016年度の入学生から学修ポートフォリオを導入し4年目を迎えた。初年度は紙媒体の小冊子を用い、2年目の2017年度からはGlexa web multimedia LMS (チエル株式会社) 上の学修eポートフォリオを使用している。記入シートの内容は、①予習内容と時間、②授業内容、③復習内容と時間、④授業中に質問した内容、⑤授業の理解度に⑥自由記述を加えた合計6項目である。学生の記入時期は、前期では履修登録が確定する5月中旬、後期は10月初旬からである。

実施にあたり、初年度から3年目までは次の (1) から (3) を申し合わせた。

(1) 授業担当教員は学修ポートフォリオの記録状況について一定の割合で成績評価に組み入れることをシラバスに明記する。(2) 15回の授業のうち少なくとも2回は確認し、学生の学習状況や活用状況を把握して評価する。(3) 成績評価における学修ポートフォリオの占める割合は、試験やレポートなどと同等に扱うものとし、各教員の判断に委ねる。

4年目の2019年度は、(1) と (3) に (4) 授業15回目に記入する「学修の総括」を必ず確認することを新たに加えた。各授業回の学修ポートフォリオの記入については、「(2) 15回の授業のうち少なくとも2回は確認すること」を含めて各教員の判断に委ねることとした。

### 2.2 ルーブリック評価の導入と実施方法

ルーブリック評価は、2018年度よりA学部で試験的に導入され、2019年度からは大学・短期大学部の全学部・全学科の取り組みとして行われている。実施にあたっては、まず学生支援センターから評価の算出方法や記入事例についてのメール配信がなされ、全教員は「総括的ルーブリック表」を授業開始日までに提出する。全教員は、初回の授業で各自の担当する授業科目

に履修登録をした学生に「総括的ルーブリック表」を配付し、その評価基準について説明する。

## 2.3 学修ポートフォリオ及びルーブリック評価の効果検証

学生に実施したアンケート調査により行った。

### 2.3.1 調査対象者および調査時期と方法

調査対象者（以下、学生）は、学修ポートフォリオの対象講義科目を履修しているA学部2学科（B・C学科）に所属する1年生97人、2年生98人、3年生53人、4年生29人の合計277人である。調査時期は2019年7月であり、14回目から16回目の授業中に授業担当者により適宜行われた。

なお、調査は本学の個人情報取得許可の承認を得て実施された。

### 2.3.2 調査の内容

調査の内容は、学科会議（2019年6月）での検討を経て次のとおり決定された。（Ⅰ）学修ポートフォリオの記入状況、（Ⅱ）予習と復習の状況、（Ⅲ）学修に対する意識、（Ⅳ）学修ポートフォリオに対する意識、（Ⅴ）ルーブリック評価について、（Ⅵ）総括的ルーブリックに対する意識、（Ⅶ）ルーブリックに関する自由記述である。調査用紙の詳細は参考資料1に示す。

## 2.4 分析対象者と統計処理

学生全体の傾向を把握するため、全体の分析対象者は277人とした。また、設問が一つずつ独立していることから、設問ごとの有効回答数で統計処理を行った。なお、使用したソフトはIBM SPSS25.0 STATISTICSである。

## 3. 結果

（Ⅰ）学修ポートフォリオの記入状況では、学生一人あたりの平均記入科目数は1年生4.6科目、2年生4.5科目、3年生3.4科目、4年生1.8科目であった（表省略）。前年度（2018年度）までは各授業回の学修ポートフォリオの記入を求めているが、今年度（2019年度）は教員によっては実施しない科目があったことから科目数に減少がみられた。各授業回の学修ポートフォリオの記入については、1年生から3年生までのいずれの学年も半数以上が1科目以上について実施していた（図1）。特に、1年生の記入率は80%以上であり、意欲の高さがうかがわれた。

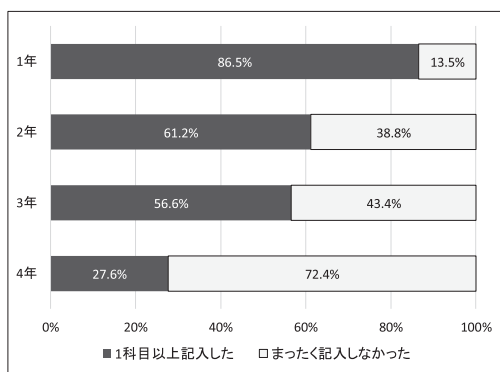


図1. 授業回(1回～15回)ごとの学修ポートフォリオの記入の有無

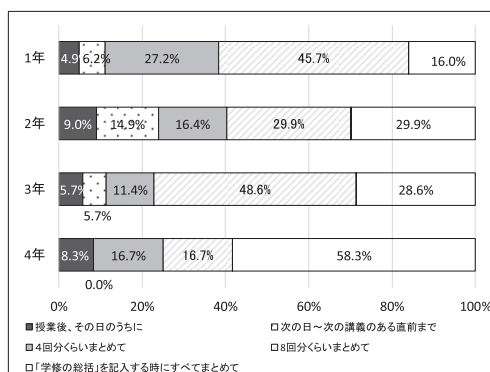


図2. 授業回(1回～15回)ごとの学修ポートフォリオの記入時期

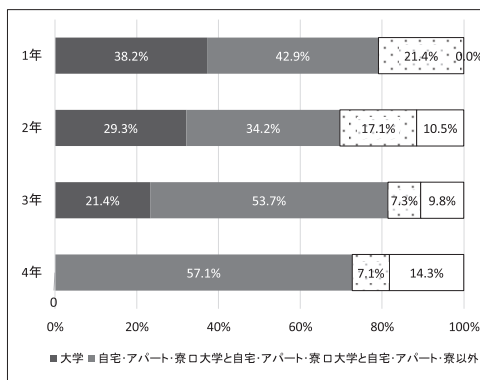
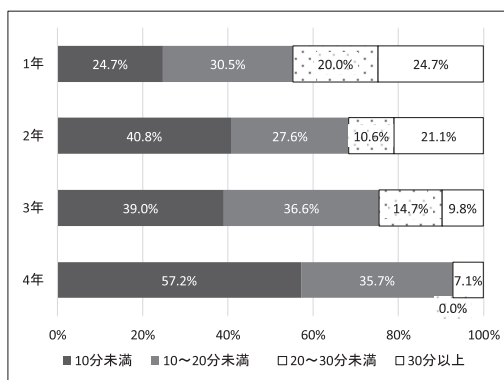


図3. 授業回(1回～15回)ごとの学修ポートフォリオの平均的な記入時間 図4. 学修ポートフォリオの記入場所

表1. 1日の平均的な予習時間と復習時間

		30分未満	30～60分未満	60～90分未満	90～120分未満	120分以上	その他	合計
予習時間	1年 人数	64	22	7	0	0	3	96
	1年 %	66.7%	22.9%	7.3%	0.0%	0.0%	3.1%	100.0%
	2年 人数	60	29	4	1	2	2	98
	2年 %	61.2%	29.6%	4.1%	1.0%	2.0%	2.0%	100.0%
	3年 人数	36	13	2	1	0	0	52
	3年 %	69.2%	25.0%	3.8%	1.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	4年 人数	20	6	1	0	0	1	28
	4年 %	71.4%	21.4%	3.6%	0.0%	0.0%	3.6%	100.0%
復習時間	1年 人数	52	33	6	1	1	3	96
	1年 %	54.2%	34.4%	6.3%	1.0%	1.0%	3.1%	100.0%
	2年 人数	51	32	10	1	2	2	98
	2年 %	52.0%	32.7%	10.2%	1.0%	2.0%	2.0%	100.0%
	3年 人数	30	17	5	0	0	0	52
	3年 %	57.7%	32.7%	9.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	4年 人数	18	7	2	0	0	1	28
	4年 %	64.3%	25.0%	7.1%	0.0%	0.0%	3.6%	100.0%

学修ポートフォリオの記入時期(図2)は、4回あるいは8回分ぐらまとめて書く学生が1年生から3年生までのいずれも半数程度であり、4年生は半数以上が「学修の総括」を記入する時にまとめて書いていた。次の授業までに記入している学生は、2年生で23.9%、その他の学年では約10%程度であり、学年によりばらつきがみられた。

授業回ごとの学修ポートフォリオの記入時間(図3)は、1年生から年次が上

がるに従って次第に短くなる傾向があるものの、1年生から4年生まで(以下、全学年)を通して全体の半数以上が20分程度の時間内で書き終えていた。また、学修ポートフォリオの記入場所(図4)は、全学年のいずれも半数以上が自宅以外の場所で記入しており、いつでもどこでも記入できるスマートフォン等の電子媒体の効用と考えられた。

(Ⅱ) 予習と復習の状況(表1)は、予習時間、復習時間ともに全学年で60分未満が80%以上を占めた。なかでも30分未満がいずれの学年も半数以上を占め、時間の確保が充分なされていない実状であった。

(Ⅲ) 学修に対する意識は、各項目について「どちらでもない」を除いた後、「非常に思う」と「やや思う」をあわせて「積極的」意識、「あまり思わない」と「まったく思わない」をあわせて「消極的」意識として算出した。さらに、各項目を授業(図5-1)、予習・復習(図5-2)、意欲・達成感(図5-3)の3つのカテゴリーに分類して示した。

授業に関する項目(図5-1)では、「授業に対する振り返りができた」の「積極的」が最も高く、全学年いずれも30%以上であった。なかでも1年生は半数以上を占め、学修ポートフォリオを活用することで授業の振り返りができたと感じていた。予習・復習(図5-2)は、1年生の「復習時間が増えた」を除き「積極的」は低く、20%以下であった。表1に示した「1日の平均的な予習時間と復習時間」において30分未満が全体の半数以上を占めていることから、学修ポートフォリオは予習や復習時間の増加あるいは予習や復習内容の記入に関する変化に

内部質保証を見据えた学修ポートフォリオとルーブリック評価について

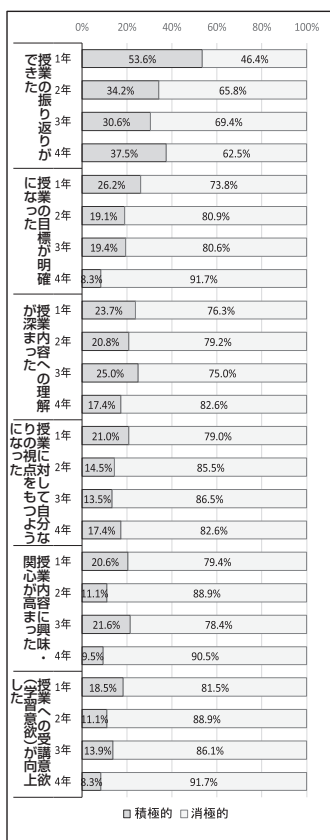


図5-1. 学修に対する意識 (授業)

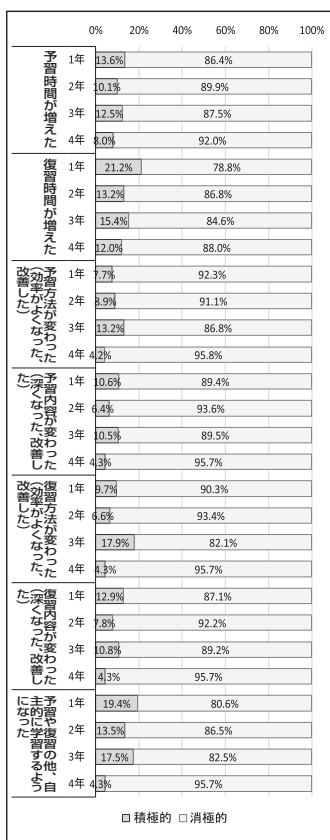


図5-2. 学修に対する意識 (予習・復習)

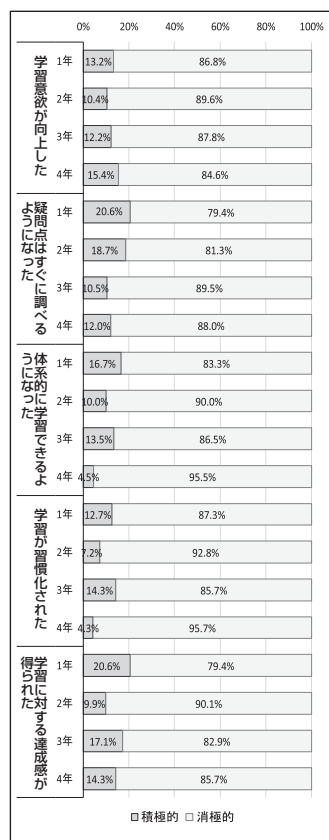


図5-3. 学修に対する意識 (意欲・達成感)

表2. 学修ポートフォリオの意義

年次	人数	複数回答2つまで									合計
		学修の振り返りのため	今後の学修課題を見極めるため	日々の学修を記録するため	予習・復習を確認するため	自己評価のため	就職活動に向けた学修成果を蓄積・アピールするため	意義は感じない	学修ポートフォリオを実施することの意味が分からない	その他	
1年	45	29.0%	7.7%	18.7%	6.5%	3.9%	1.3%	16.1%	16.8%	0.0%	155
2年	35	24.0%	4.1%	10.3%	5.5%	6.2%	2.7%	21.9%	24.0%	1.4%	146
3年	20	25.6%	6.4%	11.5%	3.8%	3.8%	5.1%	24.4%	19.2%	0.0%	78
4年	8	17.4%	2.2%	15.2%	4.3%	4.3%	2.2%	28.3%	26.1%	0.0%	46

ラスの影響を与えていないといえる。意欲・達成感(図5-3)では、「積極的」は1年生の「疑問点はすぐに調べるようになった」「学習に対する達成感が得られた」が20%以上であったが、それ以外は20%に達しなかった。1年生は、入学直後の実施で学修ポートフォリオの記入が初めてであることから、ある程度の達成感が得られたといえる。一方、上級学年は、慣れによるものとも考えられるが、意欲や達成感が充分得られていない実状であった。

表3. ルーブリック評価の効果

		非常に効果的	どちらかという と効果的	どちらでもな い	あまり効果的 ではない	まったく効果 はない	その他	合計
1年	人数	5	19	54	7	3	0	88
	%	5.7%	21.6%	61.4%	8.0%	3.4%	0.0%	100.0%
2年	人数	8	30	39	2	5	0	84
	%	9.5%	35.7%	46.4%	2.4%	6.0%	0.0%	100.0%
3年	人数	2	12	23	3	5	2	47
	%	4.3%	25.5%	48.9%	6.4%	10.6%	4.3%	100.0%
4年	人数	1	6	15	1	4	1	28
	%	3.6%	21.4%	53.6%	3.6%	14.3%	3.6%	100.0%

表4. ルーブリック評価に対する意識

			非常に思う	やや思う	どちらでも ない	あまり思わ ない	まったく思 わない	合計
1 学修課題(テーマ)に対する意欲が 向上した	1年	人数	4	24	50	15	4	97
		%	4.1%	24.7%	51.5%	15.5%	4.1%	100%
	2年	人数	4	24	50	8	9	95
		%	4.2%	25.3%	52.6%	8.4%	9.5%	100%
	3年	人数	0	13	23	10	7	53
		%	0.0%	24.5%	43.4%	18.9%	13.2%	100%
	4年	人数	0	4	14	5	6	29
		%	0.0%	13.8%	48.3%	17.2%	20.7%	100%
2 高い目標(基準)を達成したいと 思った	1年	人数	10	27	47	9	4	97
		%	10.3%	27.8%	48.5%	9.3%	4.1%	100%
	2年	人数	6	31	41	8	9	95
		%	6.3%	32.6%	43.2%	8.4%	9.5%	100%
	3年	人数	2	14	24	7	6	53
		%	3.8%	26.4%	45.3%	13.2%	11.3%	100%
	4年	人数	1	2	15	5	6	29
		%	3.4%	6.9%	51.7%	17.2%	20.7%	100%
3 基準が見えるので学修目標が明確 になった	1年	人数	14	30	41	8	4	97
		%	14.4%	30.9%	42.3%	8.2%	4.1%	100%
	2年	人数	11	36	31	7	9	94
		%	11.7%	38.3%	33.0%	7.4%	9.6%	100%
	3年	人数	4	21	17	4	6	52
		%	7.7%	40.4%	32.7%	7.7%	11.5%	100%
	4年	人数	1	10	10	4	4	29
		%	3.4%	34.5%	34.5%	13.8%	13.8%	100%
4 規準(観点)が見えるので何が評価 されるのかがわかった	1年	人数	17	36	33	8	3	97
		%	17.5%	37.1%	34.0%	8.2%	3.1%	100%
	2年	人数	12	38	32	7	6	95
		%	12.6%	40.0%	33.7%	7.4%	6.3%	100%
	3年	人数	5	23	16	3	6	53
		%	9.4%	43.4%	30.2%	5.7%	11.3%	100%
	4年	人数	2	9	10	3	5	29
		%	6.9%	31.0%	34.5%	10.3%	17.2%	100%
5 自分の学修について、つまずきや すい部分や伸びている部分等を自 覚する(振り返る)ことができた	1年	人数	5	14	56	18	4	97
		%	5.2%	14.4%	57.7%	18.6%	4.1%	100%
	2年	人数	2	14	58	11	10	95
		%	2.1%	14.7%	61.1%	11.6%	10.5%	100%
	3年	人数	0	13	23	10	6	52
		%	0.0%	25.0%	44.2%	19.2%	11.5%	100%
	4年	人数	2	3	13	4	7	29
		%	6.9%	10.3%	44.8%	13.8%	24.1%	100%
6 評価がわかりやすかった	1年	人数	9	29	47	9	3	97
		%	9.3%	29.9%	48.5%	9.3%	3.1%	100%
	2年	人数	9	33	40	7	6	95
		%	9.5%	34.7%	42.1%	7.4%	6.3%	100%
	3年	人数	1	23	18	5	6	53
		%	1.9%	43.4%	34.0%	9.4%	11.3%	100%
	4年	人数	3	10	7	4	5	29
		%	10.3%	34.5%	24.1%	13.8%	17.2%	100%
7 自己評価を実施しやすくなった	1年	人数	5	22	55	11	3	96
		%	5.2%	22.9%	57.3%	11.5%	3.1%	100%
	2年	人数	5	27	46	8	9	95
		%	5.3%	28.4%	48.4%	8.4%	9.5%	100%
	3年	人数	2	13	26	5	7	53
		%	3.8%	24.5%	49.1%	9.4%	13.2%	100%
	4年	人数	1	3	15	4	6	29
		%	3.4%	10.3%	51.7%	13.8%	20.7%	100%
8 採点が公平になると思った	1年	人数	7	17	59	11	3	97
		%	7.2%	17.5%	60.8%	11.3%	3.1%	100%
	2年	人数	6	30	39	12	8	95
		%	6.3%	31.6%	41.1%	12.6%	8.4%	100%
	3年	人数	2	20	18	7	6	53
		%	3.8%	37.7%	34.0%	13.2%	11.3%	100%
	4年	人数	1	7	12	6	3	29
		%	3.4%	24.1%	41.4%	20.7%	10.3%	100%

(Ⅳ) 学修ポートフォリオに対する意識では、1年生から3年生までの90%以上が「負担を感じた」と答えた(表省略)。4年生は、学修ポートフォリオ対象科目の履修が少ないため他の学年よりも負担感が軽かったと推察できる。また、全学年いずれも「今後も続けたい」と答えた学生は5%以下であり、継続することへの困難さが表出された結果となった(表省略)。一方、学修ポートフォリオの意義について(表2)は、「学修の振り返りのため」のように何らかの意義があると考えている学生と「意義を感じない」「学修ポートフォリオを実施することの意味が分からない」学生とで二分された。意義を感じている学生は1年生が多く、「学修の振り返りのため」が約30%であった。

次に、今年度から全学で導入した(Ⅴ)ルーブリック評価について、その効果を確認した結果を表3に示す。「非常に効果的」「どちらかというと効果的」をあわせると、1年生では27.3%、2年生では45.2%、3年生では29.8%、4年生では25.0%であった。一方、「あまり効果的ではない」「まったく効果はない」をあわせて、1年生では11.4%、2年生では8.4%、3年生では17.0%、4年生では17.9%であった。全学年で効果的であると答えた割合が高く、ルーブリック評価を肯定的に捉えていた。

そこで、(Ⅵ)ルーブリック評価に対する意識についてまとめた結果を表4に示す。8項目のうち「4 規準(観点)が見えるので何が評価されるのかわかった」が最も高く、「非常に思う」「やや思う」をあわせて、1年生54.6%、2年生52.6%、3年生52.8%、4年生37.9%であった。次いで「3 基準が見えるので学修到達目標が明確になった」が1年生45.3%、2年生50.0%、3年生48.1%、4年生37.9%であり、「6 評価がわかりやすかった」が1年生39.2%、2年生44.2%、3年生45.3%、4年生44.8%と続いた。また、「2 高い目標(基準)を達成したいと思った」についても、1年生38.1%、2年生38.9%、3年生30.2%、4年生10.3%であった。4年生は就職が内定している学生も多いことから10%程度であったが、1年生から3年生までは「総括的ルーブリック評価表」が提示されたことで、何がどのように評価されているのかを確認することができ、学修意欲の向上にもつながる結果となった。

さらに、ルーブリック評価に対する意義と要望を表5に示す。ルーブリック評価を「意

表5. ルーブリック評価に対する意義と要望

		非常に思う	やや思う	どちらでもない	あまり思わない	まったく思わない	合計	
意義がある	1年	人数	7	20	60	6	3	96
		%	7.3%	20.8%	62.5%	6.3%	3.1%	100%
	2年	人数	7	25	43	10	10	95
		%	7.4%	26.3%	45.3%	10.5%	10.5%	100%
	3年	人数	1	19	16	7	8	51
		%	2.0%	37.3%	31.4%	13.7%	15.7%	100%
	4年	人数	1	9	14	1	4	29
		%	3.4%	31.0%	48.3%	3.4%	13.8%	100%
今後も行ってほしい	1年	人数	12	16	57	7	5	97
		%	12.4%	16.5%	58.8%	7.2%	5.2%	100%
	2年	人数	5	25	40	13	12	95
		%	5.3%	26.3%	42.1%	13.7%	12.6%	100%
	3年	人数	1	19	17	6	9	52
		%	1.9%	36.5%	32.7%	11.5%	17.3%	100%
	4年	人数	0	9	13	2	5	29
		%	0.0%	31.0%	44.8%	6.9%	17.2%	100%
総括的評価ルーブリック以外のルーブリック(レポート、プレゼン等)があった方がよい	1年	人数	7	21	51	10	7	96
		%	7.3%	21.9%	53.1%	10.4%	7.3%	100%
	2年	人数	3	9	51	13	16	92
		%	3.3%	9.8%	55.4%	14.1%	17.4%	100%
	3年	人数	0	7	23	11	12	53
		%	0.0%	13.2%	43.4%	20.8%	22.6%	100%
	4年	人数	2	1	18	3	5	29
		%	6.9%	3.4%	62.1%	10.3%	17.2%	100%

義がある」と回答した学生は、「非常に思う」「やや思う」をあわせて1年生28.1%、2年生33.7%、3年生39.3%、4年生34.4%であった。一方、「あまり思わない」「まったく思わない」をあわせて1年生9.4%、2年生21.0%、3年生29.4%、4年生17.2%と比較しても、約2倍の学生が「意義がある」と考えている。「今後も行ってほしい」では、全学年でいずれも約30%が継続を望んでおり、1年生はさらに「総括的評価ルーブリック以外のルーブリックがあったほうがよい」についても同様に回答している。学生は、ルーブリック表をおおむね肯定的に捉えていることがわかった。

#### 4. 考察

4年間継続して実施した学修ポートフォリオ及び全学で導入したルーブリック評価に対する学生の意識では、学修ポートフォリオの記入は消極的である一方、ルーブリック評価は積極的に捉えており今後の継続を希望する比率が高かった。

現在、大学では、どのような教育を行いどのような人材を輩出するのかを、学修成果の観点から把握・評価を行い、その結果を教育活動の改善・進化につなげるという教育の質的転換に向けた改革について、客観的な学修成果の可視化への説明責任が問われている。学修ポートフォリオは、学修成果の効果的な達成を促す仕組みの一つとして、学生自身が学修の達成状況を点検・改善するツールとして導入されたものである。しかし、先行研究においても、これまで学修ポートフォリオの意義・目的及びメリットが学生・教職員に十分認識されていないこともあり、期待された以上の成果が報告されていない<sup>2)</sup>。なかでも学修ポートフォリオ導入の現状として、学生の問題点は「①ポートフォリオの意義・目的及びメリットが理解されていない、②効果的な学修方法を身につけようとしめない、③学修状況の書き込みを継続しない」と指摘されている<sup>3)</sup>。本調査結果からも、「学修の振り返りのため」等の回答にみられるとおり、その意義をある程度理解している学生と「意義は感じない」「学修ポートフォリオを実施することの意味が分からない」のように理解していない学生とで二分されていた。約半数の学生は学修ポートフォリオの意義をある程度理解しているが、十分な認識がされているとはいえず、これらが意識の低さにつながっていると考えられる。また、予習時間や復習時間が30分未満の学生が半数以上いることからみても、学生自身が学びのプロセスを「見える化」し、授業の点検・評価・改善が十分できていないと考えられる。

ルーブリック評価は、近年の大学教育に広く活用されており、科目の成績評価（総括的評価）の公平性、客観性、厳格性を高めることができるとして、大学教育の質を担保する要であるといわれている。特に、PDCAサイクルの検証（Check）・改善の実践（Action）への展開を可能にする鍵となるといわれ、さらに学生にとっても①どう評価されているかの明確化、②授業への関与（参画）の促進、③公平性に対する認識の促進、④批判的な思考の支援があり有効だとされている<sup>4)</sup>。その意味において、今年度（2019年度）提示した総括的ルーブリック評価表は学生自身が行う評価の指標として有効であった。学生にとって、どのように学習をすればよいかという学習方法の指標が示されることは、モチベーションの高まりを引き出すための有効な方法の一つといえる。

学修ポートフォリオについて、4年間の実施結果を踏まえ、日常的な学習である予習・復習の時間、質的な伸長は望めなかった。一方、学習の振り返りに関しては一定の効果が認められ



た。授業後に自身の学習についてあまり振り返らず、たとえば、試験やレポートが返却されても、できていなかった学習内容などを見直さず、その復習もおろそかになっている学生にとっては、ひとつの価値を生んだといえる。加えて、学修の到達目標（規準）と到達水準（基準）がルーブリックを用いることで明確になり、学生自身が半期15回の授業を通して「何を学び、身に付けることができるのか」を可視化できる点にメリットがあった。学生の学習時間が短いことは学生の予習・復習等の勉強時間に関する調査結果<sup>5)</sup>から明らかとなっていることから、こうした取り組みによって少しでも改善を図ることができればと願う。日常的な学習としての予習・復習にしっかり取り組ませるための手段として学修ポートフォリオは効果がありみられないことから、各教員が日々の授業のなかで、課題などを適切に課すなどの努力が必要と感じる。特に、授業外での学習習慣が希薄な学生や、予習・復習の仕方が分からないと話す学生も多いため、学習習慣が定着するまでは半強制力のある宿題や予習課題も、あえて必要なのではないかと考えられる。その上で、ルーブリックによる評価規準・基準を明示することにより、学修到達目標を見据えた学修の振り返りを促し、さらには4年間の学修成果の蓄積を目指した学修ポートフォリオの記入項目を刷新していくことが重要となる。

今後の機関別認証評価では内部質保証システムの構築が重要な位置づけとなっている。PDCAサイクルを回すことのできる組織であると示すこと、計画（plan）、検証（check）と改善の実践（action）が機能的に回る組織であると示すことが必要である。学修ポートフォリオの実施やルーブリック評価等の公平で客観的かつ厳格な成績評価は、教員にとっても授業点検となり、その結果を見て具体的な改善の方策を練るための重要な資料ともなり得る。

大学教育の質的転換を前進させるための今後の課題は、学生の主体的な学びを促し、学生自身が何を学び身に付けることができたかを明確にできる授業について検討していくことであるとする。

## 付 記

本稿は、「平成31年度 名古屋女子大学教育特色化推進経費」を受けて実施された成果の一部である。

## 引用文献

- 1) 中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）（2018）  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm)、（閲覧日：2019. 8.10）
- 2) 3) 公益社団法人 私立大学情報教育協会 大学情報システム研究委員会、学修ポートフォリオシステムの導入・活用等の参考指針、pp.1-3、（2017）  
<https://www.kawaijuku.jp/jp/research/jues/>（閲覧日：2018. 8.10）
- 4) Dannelle D. S. & Antonia J. L. “Introduction to Rubrics”, Sterling, Virginia, pp.17-28、（2004）
- 5) 白井靖敏、大島光代、大嶽さと子、神崎奈奈、嶋口裕基、遠山佳治、羽澄直子、原田妙子、富士栄登美子、幸順子、大学における効果的な授業法の研究6～学生の予習・復習等の勉強時間に関する一考察～、名古屋女子大学総合科学研究第9号 P1-6、（2015）

## 参考文献

- 1) 沖裕貴、大学におけるルーブリック評価導入の実際 — 公平で客観的かつ厳格な成績評価を目指して —、立命館高等教育研究14号、pp.71-90、（2014）
- 2) 三宅元子・白井靖敏、学修ポートフォリオの導入と検証、名古屋女子大学紀要第63号、pp.89-100、（2017）

参考資料 1

**調 査 表**

この調査は、平成28年度から実施している「学修ポートフォリオ」を、令和元年年度から開始したルーブリック評価を継続するに当たり、より充実させるために行なうものです。成績評価には一切関係ありません。  
以下の期間について、巻頭(1、2)が記入されているものは、あてはまる数字を○で囲んで下さい。記入する項目につきましては、具体的な文章あるいは数字等で答え下さい。

**学 科**

1. 生活環境    2. 家政経済    3. 食物栄養    4. 健康栄養    5. 看護

**学修番号・氏名 ( )・( )**

**I. 「学修ポートフォリオ」の記入**

1 現在記入している「学修ポートフォリオ」の科目数。  
1. 1科目    2. 2科目    3. 3科目    4. 4科目    5. 5科目    6. 6科目    7. 7科目  
8. 8科目    9. 9科目    10. 10科目    11. 11科目以上

2 「学修ポートフォリオ」のうち「学修の総括」を記入し、提出しましたか  
1. 対象科目についてすべて記入し提出した    2. 対象科目の一部を除いて記入し提出した  
3. 記入したが提出しなかった(できなかった)    4. 記入も提出もなかった

2.A 「学修ポートフォリオ」のうち提案回(1回から15回まで)ごとのポートフォリオを記入しましたか。  
1. すべての科目で記入した    2. 半分以上の対象科目で記入した  
3. 一部の科目で記入した    4. まったく記入しなかった

2.B **提案回ごとの学修ポートフォリオを記入した人のみ**

21.1 「学修ポートフォリオ」はいくつ項記入しましたか。(最も回数の多い場合で答えてください)  
1. 授業後、その日のうちに    2. 次の日〜次の講義のある直前まで    3. 4回分くらいまとめて  
4. 8回分くらいまとめて    5. 「学修の総括」を記入する時にすべてまとめて  
6. その他( )

21.2 「学修ポートフォリオ」はどこで記入しましたか。(最も回数の多い場合で答えてください)  
1. おもに大学    2. おもに自宅・アパート・寮    3. 大学と自宅・アパート・寮の半々  
4. おもに学校・自宅・アパート・寮以外 ( )

21.3 「学修ポートフォリオ」の平均的な記入時間はどのくらいですか。(最も回数の多い場合で答えてください)  
1. 5分未満    2. 5分〜10分未満    3. 10分〜15分未満    4. 15分〜20分未満  
5. 20分〜25分未満    6. 25分〜30分未満    7. 30分以上 ( )

21.4 「学修ポートフォリオ」の記入機器について、おもに記入した電子機器は何ですか。(最も回数の多い場合で答えてください)  
1. おもにスマートフォン    2. おもにパソコン    3. パソコンとスマートフォンを半々

**II. 学習・復習**

3 1日の平均的な学習時間はどのくらいですか。  
1. 30分未満    2. 30分〜60分未満    3. 60分〜90分未満    4. 90分〜120分未満  
5. 120分以上    6. その他( )

4 1日の平均的な復習時間はどのくらいですか。  
1. 30分未満    2. 30分〜60分未満    3. 60分〜90分未満  
4. 90分〜120分未満    5. 120分以上    6. その他( )

5 学習はどこで行いましたか。(最も回数の多い場合で答えてください)  
1. おもに大学    2. おもに自宅・アパート・寮    3. 大学と自宅・アパート・寮の半々  
4. おもに学校・自宅・アパート・寮以外 ( )

6 復習はどこで行いましたか。(最も回数の多い場合で答えてください)  
1. おもに大学    2. おもに自宅・アパート・寮    3. 大学と自宅・アパート・寮の半々  
4. おもに学校・自宅・アパート・寮以外 ( )

7 学習は個人やグループで行いましたか。(最も回数の多い場合で答えてください)  
1. おもに個人    2. おもに友人と共同    3. その他( )

8 復習は個人やグループで行いましたか。(最も回数の多い場合で答えてください)  
1. おもに個人    2. おもに友人と共同    3. その他( )

9 学習をするために使用した媒体はどんなですか。(1つ回答してください)  
1. おもに教科書・ノート    2. おもに図書館の本    3. おもにパソコンや携帯・スマホ  
4. おもに雑誌    5. おもに友人や同僚の人などとの聞き取り

10 復習をするために使用した媒体はどんなですか。(1つ回答してください)  
1. おもに教科書・ノート    2. おもに図書館の本    3. おもにパソコンや携帯・スマホ  
4. おもに雑誌    5. おもに友人や同僚の人などとの聞き取り  
6. その他( )

**III. 学修に対する意識**

「学修ポートフォリオ」を記入することについて、該当の項目の番号を○で囲んで下さい。

項目	非常に思	やや思	どちらでも	あまり思	まったく思
1 学習意欲が向上した	5	4	3	2	1
2 学習時間が増えた	5	4	3	2	1
3 復習時間が増えた	5	4	3	2	1
4 学習方法が変わった(効率がよくなった、改善した)	5	4	3	2	1
5 学習内容が変わった(深くなった、改善した)	5	4	3	2	1
6 復習方法が変わった(効率がよくなった、改善した)	5	4	3	2	1
7 復習内容が変わった(深くなった、改善した)	5	4	3	2	1
8 授業内容に興味・関心が高まった	5	4	3	2	1
9 授業への受講意欲(学習意欲)が向上した	5	4	3	2	1
10 授業の目標が明確になった	5	4	3	2	1
11 授業内容への理解が深まった	5	4	3	2	1
12 疑問点にすぐに納得できるようになった	5	4	3	2	1
13 授業の振り返りができた	5	4	3	2	1
14 授業に対して自分自身の視点を持つようになった	5	4	3	2	1
15 学習や復習の他、自主的に学習するようになった	5	4	3	2	1
16 体系的に学習できるようになった	5	4	3	2	1
17 学習が習慣化された	5	4	3	2	1
18 学習に対する達成感を得られた	5	4	3	2	1

**IV. 「学修ポートフォリオ」の記入に対する意識**

項目	非常に思	やや思	どちらでも	あまり思	まったく思
19 負担を感じた	5	4	3	2	1
20 楽しかった	5	4	3	2	1
21 今後も続けたい	5	4	3	2	1

「学修ポートフォリオ」の意義はどのようなことだと思いますか。次の項目から2つまで選んで下さい。

1. 学修の振り返りのため    2. 今後の学修課題を見極めるため    3. 日々の学修を記録するため  
4. 学習・復習を確認するため    5. 自己評価のため    6. 就職活動に向けた学修成果を蓄積・アピールするため  
7. 意義を感じたい    8. 学修ポートフォリオを実施することの意味が分からない  
9. その他( )

「学修ポートフォリオ」の記入に関して負担感や楽しかったところを具体的にあげて下さい。また、それらに対する改善点も記入して下さい。

**V. 「ルーブリック評価」について**  
該当の項目番号を○で囲んで下さい。

**1 ルーブリック評価をどのように思っていますか**

1. 非常に効果的    2. どちらかというと効果的    3. どちらでもない  
4. あまり効果的ではない    5. まったく効果はない    6. その他( )

**2 評価に総合的学修ルーブリックを用いることに関して該当の項目番号を○で囲んで下さい**

項目	非常に思	やや思	どちらでも	あまり思	まったく思
1 学修課題(テーマ)に対する意欲が向上した	5	4	3	2	1
2 高い目標(基準)を達成したいと思った	5	4	3	2	1
3 基準が見えるので学修目標が明確になった	5	4	3	2	1
4 規準(観点)が見えるので何が評価されるのがわかった	5	4	3	2	1
5 自分の学修について、つまりまずい部分や伸びている部分等を自覚する(振り返る)ことができた	5	4	3	2	1
6 評価がわかりやすかった	5	4	3	2	1
7 自己評価を実施しやすくなった	5	4	3	2	1
8 採点が公平になると思った	5	4	3	2	1

**VI. 「総合的ルーブリック」に対する意識**

項目	非常に思	やや思	どちらでも	あまり思	まったく思
9 意義がある	5	4	3	2	1
10 今後も行っていく	5	4	3	2	1

**VII. その他のルーブリック**

項目	非常に思	やや思	どちらでも	あまり思	まったく思
11 総合的評価ルーブリック以外のルーブリック(レポート、プレゼン等)があった方がよい	5	4	3	2	1

「調査に思う」「やや思う」に同意した人のお名前を教えてください。  
「あった方がよい」と思いうるルーブリックについて、いくつでも○をつけてください。

1. レポート    2. プレゼンテーション(発表)    3. 論文    4. 実習記録  
5. 実験記録    6. その他( )

**1. ルーブリック評価について、よかったところを具体的にあげて下さい。**

**2. ルーブリック評価に関して困ったこと、楽しかったところを具体的にあげて下さい。また、それらに対する改善点も記入して下さい。**

**3. ルーブリック評価に関しての感想や意見があれば書いて下さい**

ご協力ありがとうございました